

図書館だより

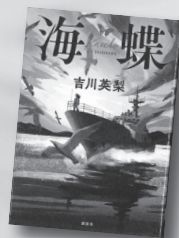
開館時間（共通）9：00～17：30
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般

【中央】

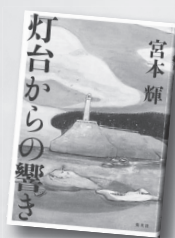


海蝶
吉川英梨／著
講談社

女性初の潜水士として注目を集める、横浜海上保安部・忍海愛。兄は特殊救難隊、父もベテラン潜水士という血筋だが、現場ではまだお荷物。海に対峙する愛をある事件が待ち受ける。

一般

【葦山】

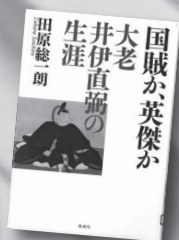


灯台からの響き
宮本輝／著
集英社

本の間から亡き妻宛ての30年前の葉書を見つけた康平。そこには海岸線と灯台のように見える線画が描かれていた。妻の過去を知るために康平は灯台をめぐる旅に出る。

一般

【葦山】

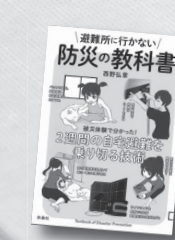


**国賊か、英傑か
大老井伊直弼の生涯**
田原総一朗／著
海竜社

時代の転換期にあって、次々に迫り来る難題に決断力と実行力を発揮した大老。滋賀県彦根出身の著者が、井伊直弼の生涯を改めて検証し、その実像に迫る。

一般

【中央】



**避難所に行かない
防災の教科書**
西野弘章／著
扶桑社

被災体験からわかった「家族を守る家」をDIYで実現する方法、停電や断水とうまく付き合いながら2週間の自宅避難を乗り切るための技術やノウハウを紹介。

新着本コーナーから

- | | | | |
|----|------------------------|---------|------|
| 一般 | 楽園の鳥（八咫鳥シリーズ 2-1） | 阿部智里／著 | 【中央】 |
| 一般 | 海の怪 | 鈴木光司／著 | 【中央】 |
| 一般 | 帰ってきたK2（池袋署刑事課神崎・黒木 2） | 横関大／著 | 【葦山】 |
| 一般 | しょうがの料理 | 有本葉子／著 | 【葦山】 |
| 一般 | 100点のほめ方 | 原邦雄／著 | 【中央】 |
| 児童 | あるヘラジカの物語 | 鈴木まもる／作 | 【葦山】 |

11月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	②	③	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	①⑥	17	18	19	20	21
22	②③	24	25	26	27	28
29	③④					

○中央休館日 □葦山休館日
 ◇両館休館日 ☆おはなし会

11月のおはなし会

中央図書館 14日（土）11：00～
 葦山図書館 14日（土）14：00～
 28日（土）14：00～
 ○感染防止対策を施したうえで実施します。

お知らせ

図書館からのお願い ～借りたものは大切に～

- 食べ物、飲み物の油や汚れがついてしまう。
- 車の中に置いたままにして熱でゆがんでしまう。
- ペットがかじってしまう。
- 子どもが破いてしまう、落書きしてしまう。
- 髪の毛やゴミが挟まっている。
- 飲み物と一緒に袋に入れて濡れてしまう。

これらはすべて、少しの気遣いがあれば防げることです。皆が気持ちよく利用できるよう一人一人のご協力をお願いします。

文化財通信

その185

伊豆の国モノ語り ～モノが語る伊豆のクニの歴史～（全7回）

第6回「東洋醸造の酒づくり」

☎ 文化財課 ☎ 055-948-1428



桶を準備する蔵人（戦前）

伊豆の国市郷土資料館は、郷土の近代史を知るための貴重な資料として、東洋醸造株式会社の酒造道具、商品およびその見本、看板やラベル、広告などを、旧大仁町社会教育課から引き継ぎました。特に、清酒部門で実際に使われていた酒造道具は、秋田から来た職人によって製造された、取っ手がかわるものがない貴重な資料です。
 明治31年（1898）、**豆相人車**（豆相人車）
 鉄道（伊豆箱根鉄道駿豆線の前身）

東洋醸造株式会社は、大正9年（1920）の創立。初代専務取締役（社長）・脇田信吾は、酒造業を営んでいた田家の旧家・脇田家の養子となり、東洋醸造を立ち上げました。合成品の研究・製造はもちろんです。昭和の初めごろには秋田県から山内杜氏を招聘して清酒づくりに力を入れました。東洋醸造の清酒「源氏」は昭和13年（1938）に優等名誉賞を受賞。企業規模も拡大し工

場を増設するなどしています。戦後は物資欠乏の時期も醸造や商品名にアイデアを加え、洋酒部門をつくり、販路を広げます。同時に、合成品ニシリンなどが製造され、医薬品メーカーとしても売り上げを伸ばします。平成3年（1991）に旭化成株式会社と合併するまで、代々の社長が先頭を切って酒造・製菓の商品化に取り組みました。清酒部門は、平成15年（2003）に蔵が閉鎖されるまで、毎年11月になると杜氏が秋田から大仁へやってきました。

この東洋醸造の清酒づくりで実際に使われていた酒造道具の一部は、現在郷土資料館に展示しています。



酒造道具：左から「きつね」「だきたる」「かすり」